

本学は平成 20 年度に引続いて経済産業省の平成 21 年度「体系的な社会人基礎力育成・評価システム開発・実証事業」に採択された。平成 21 年度に採択されたテーマは「全学年に展開する社会人基礎力育成・評価システムの開発・実証」である。平成 21 年度の委託事業には全国の大学から 28 件の応募があり、採択されたのは 12 件である（宮城大学、東海大学、新潟工科大学、岐阜大学、愛知学泉大学、名古屋産業大学、京都産業大学、大阪大学、広島経済大学、松山大学、日本文理大学）。事業費は 650 万円（1 年間）。

本事業では社会人基礎力の育成・評価とフィードバックを体系的に実施し、入学から卒業するまでの 4 年間に、社会人基礎力が段階的かつ継続的に育成・定着する教育プログラムを開発し実証することを目指す。

平成 20 年度の事業では、社会人基礎力に相当する能力を人間力とエンジニアリングデザイン能力とに分けて定義（KIT-社会人基礎力と称す）し、1 年次から 4 年次までに設けられている PBL（プロジェクト型学習：Project Based Learning）を中心とした教育プログラム群において、社会人基礎力を育成するための評価とフィードバックの方法を策定・試行してその結果を分析・評価した。

そして、平成 21 年度の事業では、平成 20 年度の事業で実施した各種の PBL における育成・評価プログラムの実証とともに、知識の習得を重視した通常の課目における育成・評価プログラムの開発として技術者入門能力の育成・評価をあわせて試みる。

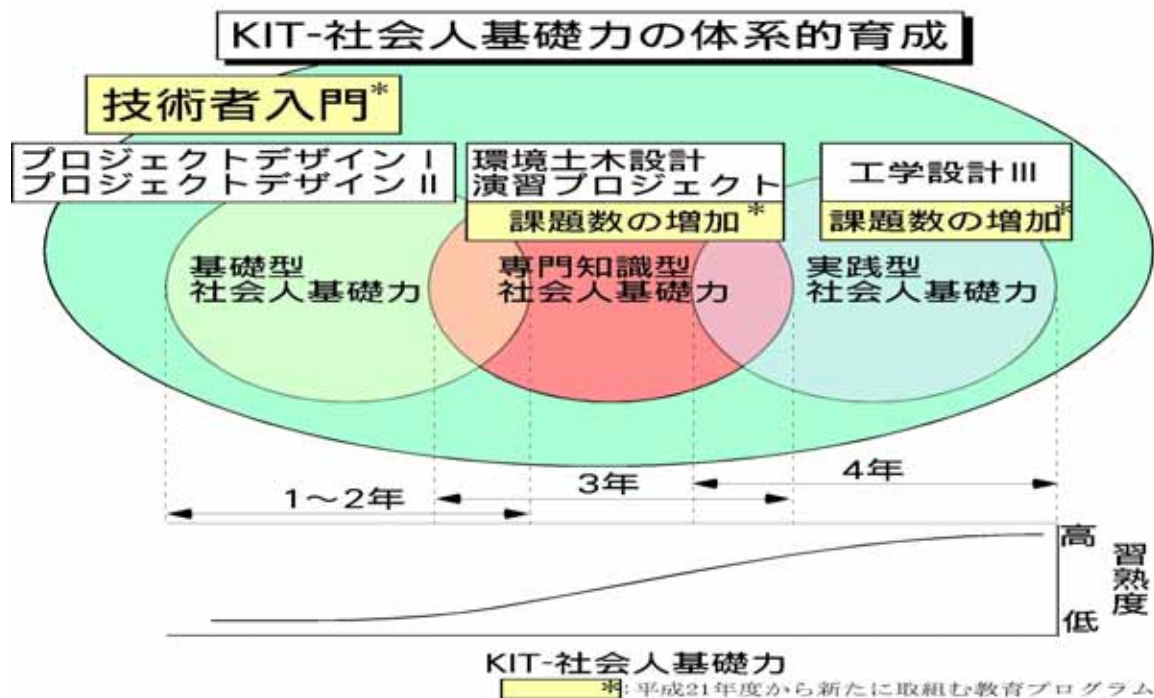


図 - 1

平成21年度の事業における体系的な教育プログラムの構成と内容を図-1、図-2に示す。「プロジェクトデザイン」と「プロジェクトデザイン」は全学共通の1,2年次生を対象としたPBLである。3,4年次生は専門知識を活用するPBLとし、環境土木工学科の「工学設計」と「環境土木設計演習プロジェクト」を対象として実施する。さらに、講義科目である「技術者入門」、「技術者入門」および「技術者入門」を通年で開講し、知識習得型学習として技術者入門能力の育成・評価を実施する。これにより、入学時の技術者導入教育から卒業までの4年間に社会人基礎力を育成する機会を多数設け、体系的に社会人基礎力が着実に向上し、定着する教育モデルを構築する。

全学年に展開する社会人基礎力育成・評価システムの開発・実証

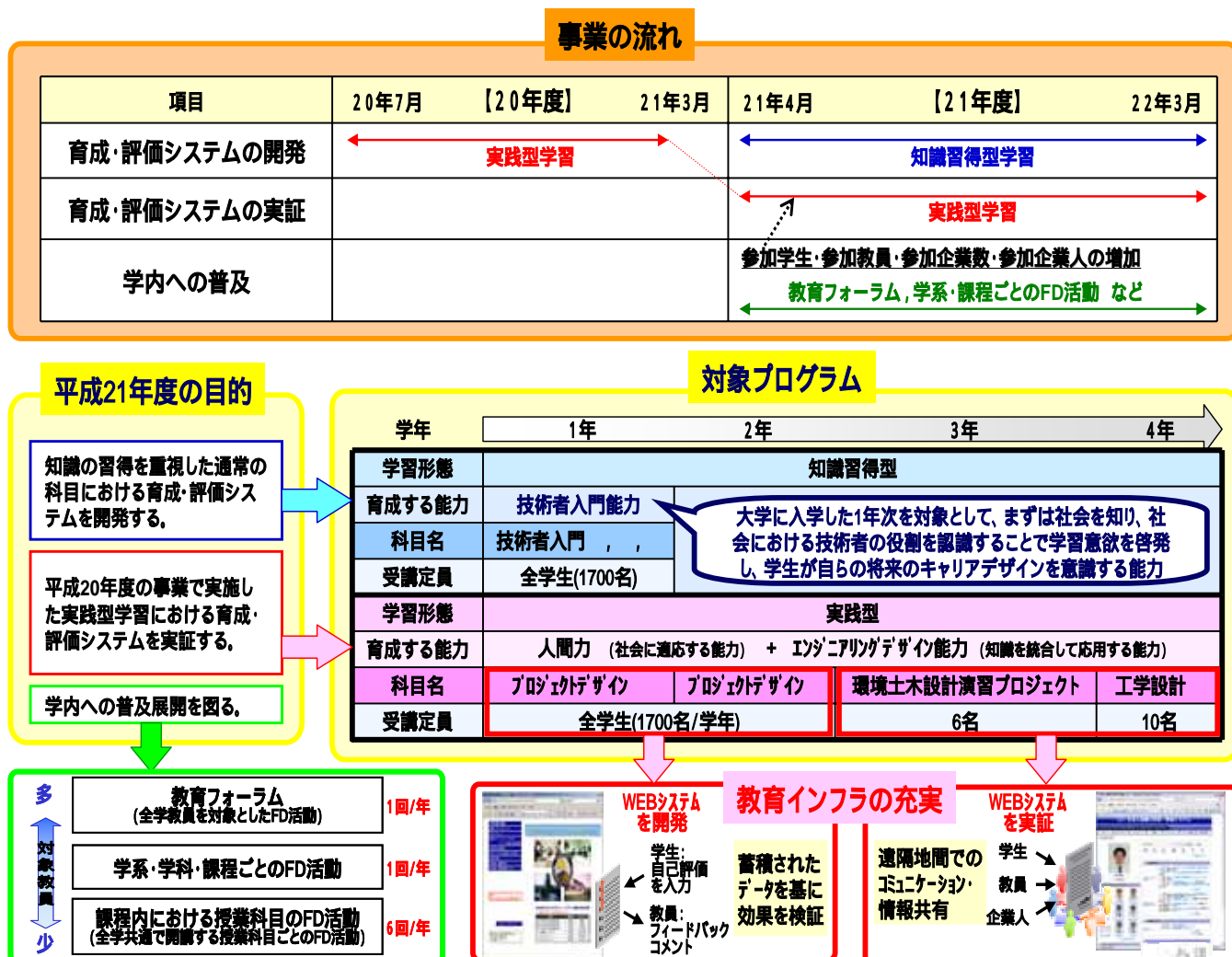


図 - 2